

I 研究の背景と目的

本研究は、open access journal(以下、「OA 誌」と言う)を収集するデータベース(DB)を参考に、「電子リソース管理データベース」(ERDB)への自主的な提言をまとめるとともに、OA 誌 DB が優良 OA 誌のホワイトリストとなり得るか、を考察した。

研究の背景は二つである。一つが「これからの学術情報システム構築検討委員会」¹が検討する「電子リソース管理データベース」(ERDB)の 2 つの課題、自動連携 10 館を含む 80 大学図書館に留まる維持管理パートナー機関の登録状況、登録約 2 万誌の 88%を占める紀要以外の学術誌の登録促進、に対する自主的な提言である。

もう一つが、参加する図書館メーリングリストの投稿で、predatory journal(「捕食誌」とする)の判定法として紹介された北海道大学の例では、ERDB の提言のために選択した OA 誌 DB の一つである Directory of Open Access Journals (DOAJ)が学術出版業界のホワイトリストとして、また、Scopus や Web of Science (WoS)も使われていた²ので考察してみることにした。

II 研究対象と研究方法

A 研究対象

UNESCO 発行の『Concepts of Openness and Open Access』³で「有名」として紹介されている厳格な審査方式の DOAJ、及び図書館員で運営されるポルトガル発 Journals For Free (J4F)、それらに加えて数学オリンピックメダリストが運営する自動索引方式の書誌・論文アグリゲータのポーランド発 Paperity、そして各国 ISSN センターの Gold OA 誌を集めて統合した ISSN 国際センターの Directory of Open Access scholarly Resources (ROAD)を研究対象とする。

B 研究方法

各運営元サイトと文献⁴からまとめた特徴比較(第 1 表)、各運営元提供の収録誌リストと統計を利用した比較、DOAJ を対象にした先行研究を参考にした検査を行い、ERDB への提言とホワイトリストの可能性を考察する。疑問が生じた際には、運営元に電子メールで質問紙調査を行った。

III 先行研究

DOAJ を対象にした先行研究の中で、複数 DB で実施可能なものを述べる。

Morris は、2005 年当時に DOAJ 収録誌 1,443 誌の利用できる最初の論文の年から OA 誌の成長具合(中央値が 2000 年、最頻値が 2001 年)を算出している⁵(①)。

Lightfoot は、掲載ジャーナルの URL の妥当性とアクセス可能性をテストし、URL の 69.51%が正常に接続された(リンクエラーは 30.49%)⁶(②)。

ドイツ国内 OA の連絡窓口ビーレフェルト大学図書館の Bruns[ほか]は、ROAD、DOAJ、PubMed Central (PMC)、OpenAPC (OAPC)、Web of Science (WoS)の各収録誌リストから ISSN と eISSN の統合表を作成し、それらを ISSN-L で重複排除し、自ら完全とするゴールド OA 誌リストを作成した⁷、とした(③)。

Strinzel[ほか]は、OA 誌のブラックリストとして Beall 氏と Cabell 氏の各リスト、ホワイトリストとして Cabell 氏と DOAJ の各リストを照合して、重複具合を算出している。DOAJ と Beall 氏の重複(捕食疑惑誌)は 29 誌である⁸(④)。

以上から、先行研究を参考に、①から④を検査するとともに、検査ではないが、DOAJ が 2016 年 5 月に基準外として削除した OA 誌⁹の DOAJ 再申請、他 DB への掲載状況の調査も行う。

B 掲載誌リストを使って

1 各データベースの重複具合(第1図)

4DB の収録 OA 誌(n=50,356)の重複具合を第1図に示す。第2表にある通り収集範囲が少しずつ異なる,例えば Paperity はハイブリッド誌を扱い,また J4F はエンバーゴ型も扱うことから,二者同士だと重複は多いものもあるが,四者全ての重複は意外にも 959 誌と多くはない。

2 偏りの見られる登録状況

各 DB の掲載誌リストを使って,発行国,言語,主題,出版社等を分析した。全体的に,雑誌使用言語は英語,雑誌主題は医学を中心とした自然科学に,また主要な学術出版社と OA 誌出版社に採録誌が偏向していた。

個別の特徴として, J4F は英米だけでなく,イベリア・中南米諸国の OA が多く含まれ, Paperity は論文使用言語の大部分が英語でありながら,ポランド語やトルコ語も上位にあった。

ROAD は,国によっては,ISSNセンターのゴールド OA 誌判定に緩厳が存在する疑いを持った。登録数は,インドネシア,インド,フランスの順であるが,インドネシアを除いて他 DB では把握されていない。同国の ROAD 登録 5,132 誌のうち,厳格な審査を行う DOAJ には 1,371 誌登録されている。DOAJ 登録誌の 1 割を占めることから,国レベルで登録を推奨しているのだろう。一方,日本の ROAD 登録 540 誌に対し,DOAJ 申請登録は僅か 26 誌である(全て英文誌)。因みに和文誌の ROAD 登録 390 誌に対し,DOAJ 登録は「0」である。また, J4F で把握されている 464 誌のうち 362 誌は J-STAGE 登録誌である。

2 万誌が登録される ERDB には,申請条件を満たす和文誌も多いと考えると,国レベルでの DOAJ 申請支援を行う必要がありそうだ。

C 先行研究との比較

1 各誌の最初の論文登録年

先行研究では,2005 年当時の DOAJ の中央値は 2000 年,最頻値は 2001 年であった。本研究では,中央値 2011 年,最頻値 2013 年となっているため,DOAJ 登録誌の入替は多い,と考えられる。また,収集対象が異なることを考慮する必要はあるが, J4F(同 2005 年,同 2008 年), Paperity(同 2005 年,同 2008 年)となっており,DOAJ を基準とすれば入替はあまりなく, J4F は一度登録されると削除されにくいのであろう。一方, Paperity は,収録誌は少ないが, DOAJ と J4F と収集対象が重なるため,グラフで検討すると同傾向の 2 つのピークが確認できる。

2 エラー(リンク切れ)

Lightfoot の調査では,3 割の URL にエラーが生じていた。調査(2018/12/10~14)を実施したところ,DOAJ のエラーが全体の 0.6%に対し, J4F のそれは 6%と多く,図書館員 4 人による維持管理の限界が見られた。Paperity は独自の固定リンクを与え,かつ論文詳細ページに PDF 自体を埋め込むのでエラーは生じない。因みに, ERDB のそれは 1.4%であるので,エラー撲滅には Paperity の考え方が参考になるだろう。

3 ゴールド OA 誌の把握状況(第3表)

ビーレフェルト大学の Bruns[ほか]が,ゴールド OA 誌と判定し,重複排除した 37,755 誌のうち収録率は,ROAD の 86%に対し,DOAJ 33%, J4F 24%, Paperity 9%に留まった。

ところで,ゴールド OA 誌の収録が少ないとされる J4F であるが,ゴールド OA 判定された Web of Science (WoS)の 4,485 誌と Scopus の 5,920 誌のうち,ROAD と DOAJ と同等の数字(7 割)を収録している。

4 捕食疑惑誌の混入状況(第4表)(第1図)

先行研究では,DOAJ と Beall 氏の重複(捕食疑惑判定)は「29」誌である。一方,本研究では,

ISSN が付与されていない同氏リストと DOAJ の重複検査は、誌名の完全一致法で行い、結果は「31」誌、ISSN+eISSN の合計は「43」誌であった¹¹。第 1 図に各 DB への捕食疑惑誌の混入状況を示す。4DB 全ての重複は 2 誌である。どの DB にも少なからず混入している(第 4 表)。最多

の J4F は OA 誌登録の増加に主眼が置かれ、捕食誌か否かはあまり考慮されていないのであろう。

ビーレフェルト大学判定 Gold OA 誌リストで検討したところ、ホワイトリストとされる WoS や Scopus にも捕食疑惑誌は少なからず収録されており、注意を要する。

第 3 表 Gold OA 誌の把握状況

	ISSN-Lで 重複排除	WoS	Scopus
Total (誌)	37,755	4,485	5,920
ROAD	86%	76%	80%
DOAJ	33%	75%	65%
PMC	5%	23%	57%
OAPC	5%	23%	20%
Paperity	9%	20%	20%
J4F	24%	77%	76%

第 4 表 捕食疑惑誌の混入状況

	Beall氏のリスト		ビーレフェルトGold OA	
	誌名 一致	誌名一致の ISSN+eISSN	ISSN+eISSN	ISSN-L重複排除
Total (誌)	39	55	42	29
ROAD	31	43	16	11
DOAJ			22	13
PMC			9	7
OAPC			27	19
WoS			31	22
Scopus			10	16
Paperity	10	16	15	10
J4F	49	71	47	32

第 5 表 Gold OA 誌の DOAJ2016 削除誌の状況¹²

	DOAJ2016削除誌の収録		DOAJ再申請	
	ISSN+eISSN	ISSN-L重複排除	しない	復活
Total (titles)	2,775	2,048	1,775	273
ROAD	2,511	1,902	1,706	196
DOAJ	591	425	152	0
PMC	151	89	70	19
OAPC	79	65	56	9
WoS	767	535	443	92
Scopus	1,069	762	625	137
Paperity	509	331	225	106
J4F	1,926	1,427	1,199	228

E DOA2016 年削除誌の収録状況(第 5 表)

ビーレフェルト大学の Gold OA 判定誌には、2016 年に DOAJ が基準外として削除し、その後再申請されなかった 1,775 誌が収録されている。中でも ROAD は「1,706 誌」とほぼ収録し、また他の DB でもかなりの雑誌が収録されている。

先の捕食誌も含め、基準の緩厳が混在する Gold OA の判定法について、ビーレフェルト大学に質問したところ、「問題なし」との回答だった(メール 2019/08/14 回答)。

VI まとめ

ERDB への提言は、学協会を含む出版社のパートナー参加、DOAJ の登録申請支援、剽窃・盗用論文対策、以上 3 点である。

一方、優良 OA 誌のホワイトリストと成り得るか、については、J4F を選外とするにしても、厳格な審査を行う DOAJ にも捕食疑惑誌は混入している、Gold OA 誌を網羅する ROAD は 2016 年の DOAJ 基準外誌を多く含んでいる、Paperity は網羅的でない、以上を念頭に使う必要がある。

¹ これからの学術情報システム構築検討委員会事務局。これからの学術情報システム構築検討委員会、<https://www.nii.ac.jp/content/korekara/>, (参照 2019-10-05)。

² 北海道大学北キャンパス図書室。午後の講座：オープンアクセスとハゲタカジャーナル。2018, <http://hdl.handle.net/2115/71762>, (参照 2019-10-04)。

³ Madalli, Devika P., Concepts of openness and open access. UNESCO, 2015, p. 31.

⁴ Wojnarski, M., Kurtz, D.H., Paperity Central: an open catalog of all scholarly literature, Research Ideas and Outcomes, 2016, no. 2, p. 1-11.; Margarido, A.P., [et al.], Journals4Free: 'one stop shop' para publicações periódicas com conteúdos em acesso aberto, 2012, <https://conferencias.rcaap.pt/confoa2012/confoa2012/paper/view/300>, (参照 2019-10-04)。

⁵ Morris, Sally, When is a journal not a journal?: a closer look at the DOAJ. Learned Publishing, 2006, vol.19, no.1, p. 73-76.

⁶ Lightfoot, Elizabeth A., The persistence of open access electronic journals. New Library World, 2016, vol. 117, issue 11/12, p. 746-755.

⁷ Bruns, Andre, [et al.], ISSN-Matching of Gold OA

Journals (ISSN-GOLD-OA): additional Information for Version 3.0, Bielefeld University Institute for Interdisciplinary Studies of Science, 2019, 6 p.

⁸ Strinzel, Michaela, [et al.], Blacklists and whitelists to tackle predatory publishing: a cross-sectional comparison and thematic analysis, mBio, 2019, v. 10, issue 3, p. 1-16.

⁹ DOAJ, 約 3,300 タイトルの削除について発表。カレントアウェアネス・ポータル, Posted 2016 年 5 月 12 日, <https://current.ndl.go.jp/node/31580>, (参照 2019-10-04)。

¹⁰ 慶應義塾大学メディアセンターレファレンス担当。オープンアクセス論文を探す: オープンアクセスって何?。 <https://libguides.lib.keio.ac.jp/oa/what/>, (参照 2019-10-04)。

¹¹ 後日、双方のリストが異なることが判明した(2019 年 9 月 26 日メール)。(先行研究) Potential predatory scholarly open-access journals: Beall's list of predatory journals and publishers, <https://beallslist.weebly.com/standalone-journals.html>; (本研究) Stop Predatory Journals, <https://predatoryjournals.com>. (Last access 2019/10/04)。

¹² DOAJ の再申請しない「152」については、本研究の使用 DOAJ 採録誌リストの取得が 2018 年 12 月 9 日、ビーレフェルト大学の取得が 2019 年 1 月 9 日のため生じた。